

日本バプテスト同盟に連なる諸教会の皆様へ

主の御受難を覚えるとき

東日本大震災に傷つかれ、大切な方を失われ、それまでの日常、故郷を失われた方々のことを思い、インマヌエルの主が、十字架の苦しみをご存知である主なる神様が、その苦しみを顧みてくださいますことを祈ります。

2011年3月31日午後2時46分に東日本大震災が起き10年を経ました。

あの日、2万人を超える尊い命が失われました。

突然、愛する者を失う悲しみは、経験者でない者には想像もできません。

今なお4万人を超える方々が避難生活を送っておられます。

また、人類史上最悪と言われていたチェルノブイリ原発事故を超える原発事故が福島で起き、人の寿命を遥かに越える事故処理が今なお続けられています。

先月2021年2月13日の福島・宮城で起きた震度6弱の余震も、10年前をフラッシュバックするような出来事として横浜に住む私も凍りつきました。今後、南海トラフ地震も想定されています。あの日の出来事は、被災者のみならず、多くの人々の記憶に爪痕を残して、日常が当たり前ではないことに、何度でも立ち返る必要があります。

主イエス様は、十字架の前、ゲツセマネの園で、眠るペトロに「誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。」（マルコ14:38）と告げられました。日常の誘惑は、非日常の生活を余儀なくされている方から見ると、眠っているように見えるかもしれません。非日常の生活を送る方々を思いつつ、祈り、自分自身の生活に目を覚まして生きる者でありたいと思います。特に東北地区の諸教会、伝道所の皆様へ、主の守りを祈ります。

2021年3月11日

日本バプテスト同盟 理事長

日本バプテスト横浜教会 大矢誉生